

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年 国語 15人 算数 15人 理科 15人

第5学年 学年休業のため、公表データはありません

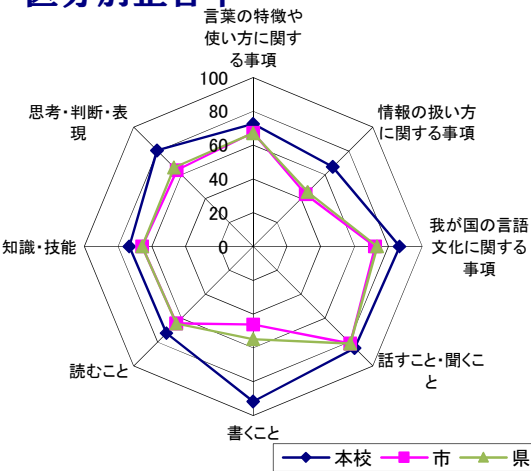
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	72.6	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	66.7	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	86.7	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	85.0	81.2	81.2
	書くこと	91.7	46.2	54.9
	読むこと	72.5	64.3	64.5
観点	知識・技能	73.3	65.7	65.7
	思考・判断・表現	80.4	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

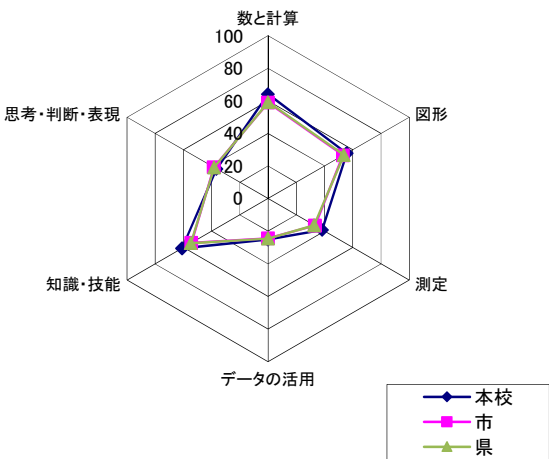
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は72.6%で、市平均を上回った。 ○「漢字を正しく読む」設問において、市平均を上回ったものが多かった。 ○「ローマ字の読み」の設問において、正答率が市平均を非常に大きく上回った。 ●「漢字を正しく書く」設問において、市平均を下回ったものが多かった。	既習の漢字を必ず使用することを徹底し、忘れたり間違えたりした漢字は正しく書くことを繰り返し指導することで、既習漢字の定着を図っていく。また、家庭学習や自主学習などでも漢字練習の時間を確保していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は66.7%で、市平均を非常に大きく上回った。 ○「国語辞典の使い方を理解する」設問において、市平均を非常に大きく上回った。	個人用パソコンを使用し、言葉の意味を調べる活動を継続して行っていく。また、国語辞典を使うことを奨励し、国語科の学習だけでなく、他の教科でも分からない言葉は調べることを習慣化していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は86.7%で、市平均を大きく上回った。 ○「漢字のへんごつくりを正しく組み合わせる」設問において、市平均を大きく上回った。	自ら進んで多くの漢字に触れる機会や活動場面を設定していくと同時に、国語辞典や図書資料等の利用を通して部首や成り立ちについて理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は85.0%で、市平均をやや上回った。 ○「相手に伝えるように、自分の考えを理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる」の設問において、市平均を大きく上回った。 ●「司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる」設問において、市平均をやや下回った。	様々な学習場面において、目的に応じた質問の仕方、相手の意見に関連付けた自分の意見の述べ方などの話型を示し、繰り返し指導していく。また、関連性の高い発言をつなげたり、自分の考えを理由を述べながら伝えたりすることで、話し合い活動が充実することを実感させ、よりよい話し合い活動の仕方を身に付けられるようにする。
書くこと	平均正答率は91.7%で、市平均を非常に大きく上回った。 ○「指定された長さの文章を書く」「自分の考えを明確にして文章を書く」「自分の考えとその理由を書く」設問において、正答率が100%であった。 ●「2段落構成で文章を書く」設問において、市平均を非常に大きく上回っているものの、正答率66.7%と課題が残った。	作文や日記などの指導においては、個別指導が効果的なので、授業の振り返りやまとめの際に、個別に条件を設定し、与えられた条件に合致させながら書く経験を積みさせていく。普段から字数や段落数などの条件に合わせて文章を書くことで文章表現力を高めていく。
読むこと	平均正答率は72.5%で、市平均を上回った。 ○「登場人物の気持ちを叙述を基に捉える」設問において、正答率が100%だった。 ○「叙述を基に文章の内容を捉える」設問において、市平均を大きく上回った。	学年や児童の実態に合った文学作品や説明文を紹介し、読書への意欲付けを図っていく。また、文章に書かれていることから登場人物の性格や気持ちを推測させるなどの、叙述に沿った読解力を育てるために、人物の考え方や性格をみんなで考える活動などを取り入れていく。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.1	58.9	59.2
	図形	55.6	53.0	53.7
	測定	38.3	33.1	32.6
	データの活用	25.0	24.4	24.6
観点	知識・技能	61.0	54.3	54.7
	思考・判断・表現	36.7	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

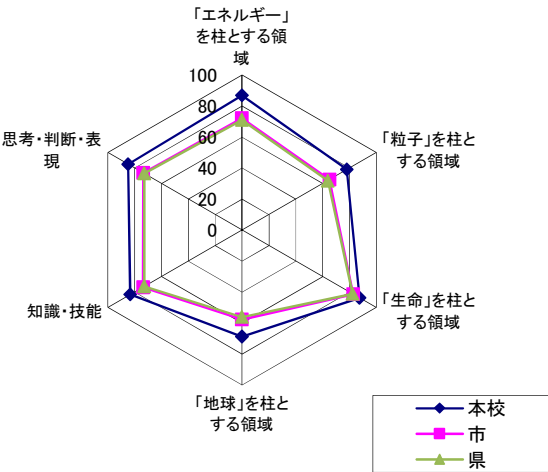
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は64.1%で、市平均を上回った。 ○「小数のしくみや表し方」の設問においては、正答率が100%で市平均を大きく上回った。また、「数直線の目盛りが表す数の大きさを分数で答える」設問においても、正答率が市平均を非常に大きく上回っており、小数や分数の学習内容が十分定着していると推測される。 ●「大きな数の表し方」の設問において、正答率が66.7%で、市平均を大きく下回った。	基礎的事項の定着が見られるが、引き続き「数と計算」に関する基礎的な知識について再度確認し、確実に身に付けさせるとともに、計算プリントやドリルで定着を図っていく。また、家庭学習や朝の学習、ICT機器の活用を通して、より計算技能を高められるように、適切な課題に取り組ませていく。 学習内容の定着に遅れが見られる児童には、少人数指導を活用したり、丁寧な個別指導を行ったりすることで、基礎となる既習事項の復習の機会を設けるようにする。
図形	平均正答率は55.6%で、市平均をやや上回った。 ○「二等辺三角形」の設問において、正答率が86.7%で、市平均を大きく上回った。 ●「円の性質を利用して正三角形を作図する」設問において、正答率が26.7%で市平均を大きく下回った。	図形に関する基礎的事項が十分定着するよう、授業において用語の提示や習得方法を工夫していく必要がある。二等辺三角形や正三角形の性質を復習するとともに、道具としてのコンパスの特性を確認することで、図形の性質の理解をさらに深められるように指導する。また、根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。
測定	平均正答率は38.3%で、市平均を上回った。 ○「前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める」設問において、市平均を非常に大きく上回った。 ●「はかりの目盛りを読み取り、重さを答える」設問と「重さが同じになる組み合わせとして、正しいものを選ぶ」設問において、正答率がともに市平均を下回った。	時刻や時間に関しては、基礎的事項の定着が見られるが、重さに関しては、未定着である児童が見られたため、個別指導で対応しながら定着を図っていく必要がある。また、より時間や距離、重さなどの量的感覚を身に付けさせるために、身の回りの物の重さや長さをはかる活動を多く取り入れ、体験を通して実感を伴った理解を促していく。
データの活用	平均正答率は25.0%で、市平均と同程度だった。 ○「示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する」設問において、市平均を上回った。 ●「目盛りの付け方が異なる2つのグラフで、棒の長さで数を比べられないわけを説明する」設問において、正答率が市平均を大きく下回った。	棒グラフを見て、1目盛の大きさや量を正しく読み取るだけでなく、様々な見方から棒グラフを読み取る力を付けるためには、棒グラフを見て、気付いたことや分かったことを話し合う活動を多く取り入れる必要がある。 さらに、算数科だけでなく、社会科や理科の学習内容との関連付けを図り、表やグラフを読み取る力を養いながら、根拠を基に説明する経験を計画的に積ませていく。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	86.9	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	78.1	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	87.5	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	68.8	57.7	56.2
観点	知識・技能	83.3	73.8	72.8
	思考・判断・表現	84.9	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は86.9%で、市平均を大きく上回った。 ○10問すべての設問において、市平均を大きく上回った。 ●「日光を集めたときの明るさとあたたかさについて理解しているかどうかをみる」設問において、市平均を大きく上回ってはいるものの、正答率が68.8%で7割を切っていた。	日光を集めたときの明るさとあたたかさについての理解について、実験の方法や結果を図や文章等で分かりやすくまとめる活動を行い、二つの事象の相関性について理解を深めていく。抽象的な概念のため、理解しにくい学習内容においては、ICTを活用した動画の視聴により、理解を深めていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は78.1%で、市平均を大きく上回った。 ○「形を変えても重さはかわらないことについて理解しているかどうかをみる」設問において、市平均を大きく上回った。 ●「同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる」設問において、市平均を非常に大きく上回ってはいるものの、正答率が62.5%で7割を切っていた。	形を変えた粘土の重さの学習等では、形を変えても重さは変わらないということを児童の生活に結び付けて実感させることで、概念の形成を図っていく。また、予想や仮説をもち、条件に着目しながら児童自らが実験を計画する活動を取り入れる等、問題解決の過程を大切に授業展開を行う。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は87.5%で、市平均をやや上回った。 ○「植物のめばえについて理解しているかどうかをみる」設問と「モンシロチョウ、カブトムシの育ち方とショウリョウバッタの育ち方の違いを見出すことができるかどうかをみる」設問において、正答率が100%だった。 ●「昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いをとらえることができるかどうかをみる」記述式の設問において、市平均を下回った。	昆虫や植物の学習では、実物をよく見る活動を基本とし、図鑑や動画などを効果的に活用して、調べたことや分かったことを自分の言葉でまとめたり、説明したり、伝え合ったりする活動に時間をかけていく。また、記述が苦手な児童には、キーワードを示し、文章を構成する経験を重ね、表現力を高めていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は68.8%で、市平均を大きく上回った。 ○「かげが太陽の反対側にあることを理解し、かげふみの動きと結び付けられているかどうかをみる」設問において、市平均を大きく上回った。 ●「太陽が動く方位を理解しているかどうかをみる」設問において、市平均を下回った。	観察や実験等を充実させることにより、実体験から確実な学習内容の理解へとつなげていく。また、模型や動画等で確認することにより、学習内容の定着を図る。方位のとらえ方については、理科の時間だけでなく、他教科の学習や学校生活の様々な場面で取り入れ、技能面の習得を図る。

宇都宮市立城山西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の設問において肯定割合が94.4%で、市平均を大きく上回った。児童の学習への意欲の高さがうかがえる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の設問において肯定割合が77.8%で、市平均を大きく上回った。日常的に一人一台端末を学習に活用していることがうかがえる。

○「授業を集中して受けている。」の設問において肯定割合が100%だったことから、学習の取り組み方が良好だと分かる。

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」の設問において肯定割合が66.6%で、市平均を大きく上回った。意見を発表することが得意な児童も多いが、人前で話すことが苦手な児童もいることから、自分の考えを発信する活動を適宜取り入れていく必要がある。

○「自分はクラスの人役に立っていると思う。」の設問において肯定割合が88.9%で、市平均を大きく上回った。それぞれの児童が活躍する機会があり、自己有用感が高いことが分かる。

○「自分は勉強がよくできる方だと思う。」の設問において肯定割合が77.8%で、市平均を大きく上回った。ほとんどの児童は、学習に自信をもっていることが分かる。

○「時間を上手に使うことを、心がけている」の設問において肯定割合が94.4%で、市平均を大きく上回った。学校や家庭での時間の使い方を工夫しながら生活していることが分かる。

●「家で、学校の授業の予習をしている。」の設問において肯定割合が38.9%で、市平均を非常に大きく下回った。

●「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の設問において肯定割合が33.4%で、市平均を非常に大きく下回った。前述の設問においても同様だが、本学級の児童は学童での学習を主としているので、家庭での学習の割合が低い傾向にある。

●「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る。」の設問において肯定割合が38.9%で、市平均を非常に大きく下回った。難しい問題を解けたときの達成感を味わう機会が少ないため、このような結果になっていると推測できる。基礎基本の定着との両立を心掛けていく。

宇都宮市立城山西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている。」の設問において、肯定割合が71.4%で、県平均を大きく上回った。
 ○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある。」の設問において、県平均を上回った。また、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の設問において、県平均を大きく上回った。全体的に知的好奇心が高いと言える。その知的好奇心を学習と関連させたり、学校での授業が深くかかわっていることに気付かせたりして、学ぶ楽しさにつなげていきたい。
 ●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」の設問において、県平均を非常に大きく下回った。県平均と比較して30%以上差があり、高学年として自分から進んで学習する態度の育成をしていく必要がある。
 ●「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」の設問において、肯定割合が50%に止まり、県平均を大きく下回った。間違えた問題や分からない課題をそのままにせず、復習する習慣づけを学校が主体となって行っていく必要がある。そのような取組の中で、基礎学力の定着や、課題に粘り強く取り組む姿勢を育てていきたい。
 ●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の設問において、肯定割合が50%で、県平均を大きく下回った。今後も自主的に学習をする態度の育成に努めていく。
 ●「家庭学習の時間について」の設問において、個人差が見られるが、調査結果との相関性を見ると、学習習慣が身に付いている児童は基礎的な学力も身に付いている傾向があった。宿題や家庭学習を通して学習習慣を定着させていきたい。
 ●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」の設問において、県平均を大きく下回った。学年全体として学習に主体的に取り組む意欲が低い傾向にある。主体的に学ぶための授業づくりを推進していく。
 ●「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている。」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の設問において県平均を非常に大きく下回った。自分の考えを明確にして発信することに苦手を感している児童が非常に多い。学級は発言しやすい雰囲気が醸成されているようなので、自分の考えを話すことから始め、徐々に文章化できるようにしていきたい。
 ●「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している。」「自分の行動や発言に自信をもっている。」の設問において県平均を非常に大きく下回った。児童の自己肯定感の低さがうかがえる結果である。授業はもとより行事や委員会活動などの特別活動を通して、一人一人の自己肯定感や自己効力感を高める手立てをしていく。
 ●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」の設問において県平均を非常に大きく下回った。学習の基本となる事項であるため、適宜指導に当たるとともに、学び方についても助言していく。

宇都宮市立城山西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「聴く」ことの重点的な指導	・児童が自分の考えや分かったこと、疑問に思ったことを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に発信しようとする学習活動の工夫をする。 ・「聴く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考えと比較したり、反映させたりしていく。	・学習意欲が高く、授業に積極的に取り組んでいる。 ・自分の考えを発表することに対して得意だと感じている児童が約6割いる一方で、約3割の児童は苦手意識をもっている。 ・学級は発言しやすい雰囲気があり、話し合い活動も積極的に取り入れられている。 ・市平均と比較して、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると感じている児童は少ない傾向にある。
振り返り活動の充実	・授業者による肯定的なフィードバックの充実を図り、児童の自己効力感を高めていく。 ・単元末や授業の終末における振り返りに対して教師が適切なフィードバックを行い、児童が自己の学習活動や取り組みの成果を俯瞰的に捉えることができるようにする。	・先生は学習のことについてほめてくれると感じている児童が多い。家庭でも同様の傾向が見られる。 ・困難な課題に対して粘り強く取り組む姿勢に課題が見られる。 ・各教科の学習内容が、日常生活や将来の自分の生き方に生かされていくと考えている児童が市平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基礎的な事項が十分定着していない児童が一定数見られた。 ・設問内容の理解が不十分だと考えられる誤答が散見された。 ・市平均と比較して、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできていると感じている児童は少ない傾向にある。 ・困難な課題に対して粘り強く取り組む姿勢に課題が見られる。	・「聴く」ことの重点的な指導 ・中間の振り返りを含めた、振り返り活動の充実	・「聴く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考えと比較したり、反映させたりしていくよう働きかけていく。 ・授業や単元の途中で「中間の振り返り」を取り入れ、より学習のねらいに到達しやすい環境づくりをする。また、中間の振り返りを通して、児童が自他のよさに気付くことができる機会にしていく。